

2024年度 東京蜘蛛談話会例会

1. 日時 2024年12月1日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋3-3-7
JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩3分
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。
加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 パソコン、プロジェクター、用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材(スライド、OHP、コンピュータ)を事務局初芝までお知らせください。
〒186-0002 東京都国立市東3-10-8 コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス 初芝伸吾
mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp
Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

● 錦糸町駅南口から徒歩3分です。



御殿谷川（八王子城址）の溪流から ①アカイロトリノフンダマシ

新海 明

50 余年のクモ人生で調査地としてもっとも足しげく通った場所は千葉県房総半島の清澄山で、その次に多いのが東京都下の八王子城址だ。この地を初めて訪れたのは中高生の頃の 1960 年代だった。

多摩川の支流に当たる御殿谷川沿いの林道をしばらく進むと広場に出る。たぶん駐車場としてつくられたものだろう。当時は、ここはちょっとした氾濫原で背丈ほどもある雑草で覆われていた。かつて八王子城址行のバス終点にあった東京造形大学（現在は JR 横浜線の相原駅のそばに引っ越してしまった）の学生たちが習作のスケッチをしたり、カップルの密やかなデートの場にもなっていた。

大学生になってからはここに来ることはほとんどなかったが、教員になってしばらくしてトリノフンダマシの夜間調査地として選んだのがここだった。その頃に談話会で知り合った貞元己良さん鈴木勝浩さんという若手大学生（彼らとて今ではすでに定年を迎えたはずだ）を誘って、夜通しのトリフン観察会を行った。なんと 1980 年代初頭にこの地にはアカイロトリノフンダマシが豊産していた。一晩に 22 個体も観察できた年もあった。今では考えられない。私たちはアカイロ 1 個体ずつの網に番号を振り、一晩にどれほどの餌がかかるかを調べた。その時、私は夕暮れにアカイロの網をチェックする際に、その造網過程に惹きつけられてしまったのだ。

当時、トリノフンダマシの造網法はクモ関係者には知れ渡り、特段に珍しいものではなかった。だが、このとき私は、それまでに知られていなかった造網の秘密を見つけたのだ。トリフンたちの造網は皆同じだ。しかし普通の円網と比べると横糸の取り付け方がまったく異なっている。普通の円網種での横糸は外側から内側かららせん状に張られていく。トリフンとてそれは同じだが、横糸はらせん状ではなく「同心円」状である。このこともすでに知られていた。ただし、より正確に言えば正真正銘の「同心円」ではない。かつて刊行された初心者向けのクモの入門書や専門の図鑑にも「同心円」に描かれた図が掲載されていた。しかし、よく調べれば同心円に見える横糸には「食い違い」がたくさん見られる。その「食い違い」に、私は法則を見つけたのだ。

すなわち、横糸の食い違いが集中するのは上方と下方の2か所に限られていた。ざっくりと言えばやや傾いて水平に張られた網の下側（低い方）と反対の上側（高い方）にあったのだ。そして、この下側（低い方）に張られた縦糸の1本が横糸張りの出発点となる重要な糸であることを見つけた。造網を初めて見たときには、先行研究で報じられた通り、網の半分ずつ、横糸が左右交互に取り付けられていく過程に「なるほどね」と感心しただけだった。でもよく見ていると横糸を半周取り付けたアカイロは、ほぼ誤りなくある1本の縦糸に戻ってきたのだ。このことは造網過程をスケッチしていたことで気付いた。この1本の縦糸がどのように選択されているかをさらに詳しく観察していると…この縦糸は、やや傾いて水平に張られたアカイロの網の最下方にある縦糸であることがわかった。ジョロウグモの造網でも二分割糸や分枝に秘密があったように、トリフンたちの造網にも未だ知られていない秘密を見つけて、私は興奮した。

さらに餌（蛾）捕獲の際に横糸の一方が自然に切れるローシアジョイントの造りさえ、この最下方の1本の縦糸に注目すれば、その法則が分かったのだ。すなわち、横糸を張り始める起点となる最下方の縦糸に取り付けた横糸はしっかりと縦糸に固定されるのに対して、こしき部を経由してとなりの縦糸に渡って取り付けられた横糸の接着部分がローシアジョイントになったのだ。

この造網法が分かると、トリフンの完成した網のある一本の横糸の左右どちらが切れ

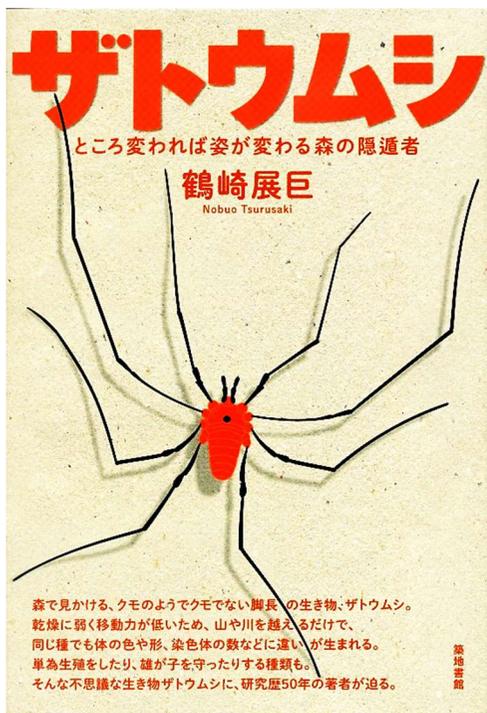


アカイロトリノフンダマシの網

るのか容易に予測できた。夜間観察会などでこれをクイズ形式、つまり「トリフンの横糸の左右どっちが切れるでしょうか」と質問した後で、切れる場所を実演して示すと結構受けた…が、仕組みの詳細を語りだすと、そこまでの興味はなさそうで「なるほどねえ」となって終わることが多かった。

私の網研究はジョロウグモやトリノフンダマシの網との出会いから始まった。いずれの網も先人によってその造網や特徴はすでに調べられていた。新種の発見も確かに興奮するのだが、そんじょそこらに見られる「フツー」のクモ（トリフンはそうでもないが）に隠されたさまざまな謎を見出した時に、人一倍感動する「性」は一生治らないように思う。

新刊紹介

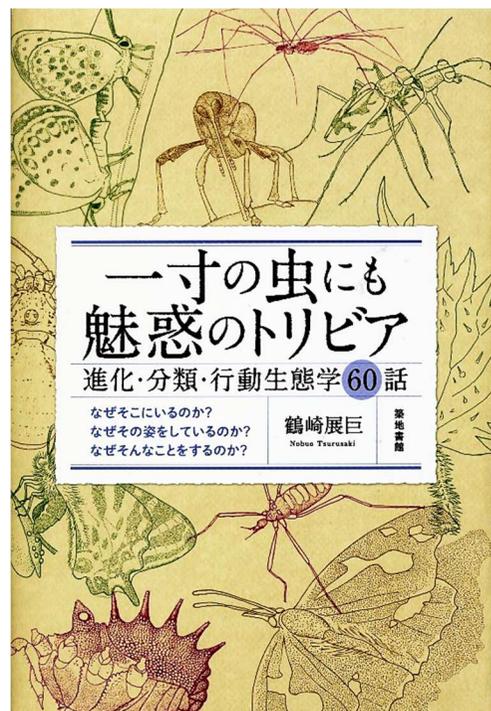


ザトウムシ

鶴崎展巨著

築地書館 ISBN: 978-4-8067-1667-9

2400 円 + 税



一寸の虫にも魅惑のトリビア

鶴崎展巨著

築地書館 ISBN: 978-4-8067-1668-6

2200 円 + 税

ゆるクモイラスト

天木詩織



アカイトリノフンダマシ ♀



マミジロハエトリ ♂



アシダカグモ ♂



ヨツボシワシグモ ♂

入退会は：

事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8
コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス
E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416
E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp
通信の原稿締め切りは、4月末、8月末、12月末です。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

鈴木佑弥 〒770-8070 徳島市八万町向寺山（番地なし）徳島県立博物館
E-mail : sasaganiya1206@gmail.com
ファイルサイズが大きくてメール添付できない時には、ドロップボックス
やグーグルドライブの転送機能・共有機能、宅ふぁいる便やデータ便などの転
送サービスをご利用ください。
キシダイアの原稿締め切りは、6月末、12月末を目安とし、予算枠内のペ
ージ数まで先着順といたします。

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 4000 円、学生 1000 円です。

**（しばらくの間会費を値下げしておりましたが、2022 年度より元の水準に
戻し、一般 4000 円、学生 1000 円といたしました。）**

会費は郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。
会費・住所変更は：会計担当 須黒達巳
〒150-0013 渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎
TEL : 080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com